

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立北野中学校

平成29年4月18日に、本校3年生を対象とした「全国学力調査」が行われましたが、その結果がまとまりましたので連絡させていただきます。本調査は、国語、数学、生徒質問用紙からなり、学力だけでなく生活習慣との関係なども調査されました。

【総合結果 国語・数学・理科】

平成29年度全国学力・学習状況調査結果(中学校調査)

【教科に関する調査の結果(平均正答率)】

	国語A(知識)	国語B(活用)	数学A(知識)	数学B(活用)
全国	77.4	72.2	64.6	48.1
京都府	78	73	66	49
京都市	78	73	65	49

(各都道府県、政令指定都市の平成29年度の結果は小数点以下の公表をしていません)

上記にありますのは、平成29年度の全国学力調査における全国・京都府・京都市の平均正答率を表しています。京都市は、各教科とも全国平均正答率を若干上回っていることがわかります。本校の結果は、国語A(知識)においてわずかに全国を下回る結果となりましたが、それ以外では全国の平均正答率を上回る結果を残しております。

各教科別に詳しく分析した結果を以下に紹介させていただきます。お子様のアドバイスにもぜひご活用ください。

【国語】

国語Aは、漢字や文法、書写の問題が含まれ、授業や日常生活の生徒自身が話す・聞く・書く・読む場面において必要な国語の知識が身についているかを問う設問である。本校では京都府、京都市平均、全国平均を若干下回る結果となりました。特に言語の知識（小学校で習った漢字の書き）の理解が低いことがわかりました。また、文章の要旨を捉える、文章の構成や展開、表現の特徴についての理解を問う問題にも弱さが見られました。

国語Bは、習得した知識を学習の過程のなかで、活用できるかを問う問題であり、A問題以上に複雑な設問が多かった。本校では「場面に展開や登場人物に描写に注意して読むことに」について平均を上回りました。中でも、自分の考えを書いたり、目的に応じて資料を効果的に活用したり、集めた材料を整理して文章を考えたり、必要な情報を読みとったりする力がついており日常の授業の中での取り組みが結果として表ってきたように思います。学習したことを活用しているが、既習の漢字の書きが定着していないこと、文章の構成についての理解が定着していない点が課題であると考えます。

【課題克服の取り組み】

- ①既習漢字の活用
- ②アイデアを得るため、話し合い活動を多く取り入れる。
- ③新たな情報を見つけるため、話し合い活動を多く取り入れる。
- ④根拠を示すため、資料を使う授業を行う。
- ⑤しっかり聞くため、メモをとらせる。
- ⑥対話的な学びをすることで、自分では到達できなかった「視点」、見つけられなかった「情報」、新たな「疑問」に気づかせる。
- ⑦授業での学びと日常のつながりを意識し、活用を意識した場面を作る。

【数学】

数学ABともに全ての領域で全国・京都府・京都市の平均正答率を上回りました。全ての観点（見方・考え方・技能・知識・理解）、問題形式（選択式・短答式・記述式）に関わらず、全て上回りました。これは1、2年生時に授業内での復習問題取り組み、課題のある問題や領域については解説・学習を繰り返し行ってきた結果でもあると思います。

また、特に数学B・資料の活用は大きく上回りました。この領域は1年生で学習した後、学習確認プログラムで理解が浅いことがわかり、その後のテストごとに復習し定着を図ってきました。課題克服のために諦めずに取り組んだ成果だと思います。

【課題克服の取り組み】

数学が嫌 → 学ぶ意義が分からぬ → 生活に役立たぬ → 学習に取り組まぬ
といった

負のスパイラルに陥っている生徒がいることが少なからずいることが課題である。

やらされている → 仕方なくやる → 大切だ・価値がある → 自ら進んで学ぶ →
→好き・面白い

のような前向きに数学に全員が取り組めるように授業を改善、実生活との関連付け、既習事項を意識して使わせる必要があると思います。

【生徒質問紙調査より】

「朝食を毎日食べていますか?」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか?同じくらいの時刻に起きていますか?」「学校の規則を守っていますか?」などの生活習慣についての質問回答率はどれも高いので、基本的な生活習慣が身についていると言えます。

「外国の人と友達になったり、外国のことについて、もっと知りたしてみたいと思いませんか?」「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたりしたいと思いますか?」と言う質問について外国への関心が、全国に比べ突出して高いことがわかりました。国際化が加速する現在、多様に文化や価値観を持つ人々が互いに認め合い、支え合うことが大切になってきている。多文化共生社会の構築や国際平和に興味・関心があり、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢が育成できていると考えます。

テレビゲームやSNSの利用についての問題がよく聞かれる昨今、家庭での過ごし方について、「普段、テレビゲーム、スマートフォンなどに一日あたり一時間以上、時間を費やしている」は全国平均に比べて下回っている。しかし、特定の生徒(家庭)はこのことで悩んでいることは課題です。

また、家庭学習においては、決められた宿題や課題にはしっかり取り組んでいるが、自主的に計画を立てて学習(読書)することが苦手な生徒が多いです。毎日の学校での朝読書だけではなく、家庭や余暇の時間に読書をする習慣をつけていってほしいと思います。

規範意識が高い生徒が多いので、塾や決められた学習は取り組めるが、自ら進んで学習することが課題です。自分に自信を持ち、自ら考え切り拓く力につけることが今後の課題です。

これから、3年生は自分の進路に向けて力強く自己決定していく時期に入ります。普段の生活を今一度見直し、授業や家庭学習を大切にし、さまざまな意見を参考にしながら、しっかり自分の生き方を考えて行動していくことができれば、みんなで頑張ってきたこの学年のよさに後押しされ、たくましく進路を決定していくのではないかと思います。

ご家庭でもこのような事に触れた会話をしていただけたらありがたく思います。